

選外佳作の三

狸とお團子

石堂 トヨ子

そよ／＼春風が青草の上を優しく撫で、行きました。つくしがすつく背伸びしました。たんぼ／＼がつこり微笑みました。狸さんは自分のお家である穴から這出してきました。そして柔くて、暖かくて、良い香りのする嫩草の上に寝轉びながら考へ込んでみました。時々、太い尻尾を撫でゝるますのは昨日、お山の小僧さんに引つ張られた時の痛みがまだ治らないからでした。可哀想に所々少し毛がぬけておりました。

さうかして仇討がしたい。本當に生意氣な小僧だまでよ、ひよつこするこ、昨日のお團子がまだ残つてゐるかも知れない。そう／＼仇討を後にしてもそのお團子だけは。こ思ふこ矢も楯もたまらなくなつて、ぴよんこ飛び起るこ大急ぎでお山の方へ歩き出しました。森の入口にさし

かゝりました時、向ふから仲間の狐さんの歩いて来るのが見えましたので今度は散歩の時見たいにゆつくり歩きました。

狐「やあ、狸さん今日は。さちらっ」

「うん僕お散歩してるの」ミ何げなく云ひましたが狐さんが自分の毛の少しぬけた尻尾を不審さうにじろく見ますもので、極り悪くなり「さよならッ」ミ云ふが早いか馳出してしまひました。

暫く走つてから、狐さんが後を追かけて来やしないかミ振返つて見ましたが、そんな様にも見えませんので安心して歩き出しました。お山のお寺に着いた頃はもうお晝も大分過ぎた、お八つの時間に近い頃で、狸さんのお腹が丁度良い塩梅に空いてゐました。

お寺の中はしーんとして、本堂の前は全部開けはなしてありました。きつき、小僧さんはお習字でも、和尚さんはお晝寝でもしてゐるのでせう。本堂から和尚さんの居間の方に續く長い廊下は人影もなく、櫻の花のそよ風にひら／＼散る音が聞えるかミ思はれる程の静けさで御さいました。狸さんがそろつミお縁側に上つて見ますミ、あみだ様の前のいろ／＼なお供物の中に混つて、大きなお皿にたつた一串、お團子がのつて居りました。狸さんは、占めたミ思ひながら靜かに靜かに疊を歩いて行きました。丁度五つか六つ歩いた時廊下に足音がしました。狸

さんは驚いて大急きで香爐に化けました。そして、本當の香爐の置いてある下の段に坐りました。本堂に入つて來たのは昨日の小僧さんでした。小僧さんは何か取りに來たのですが香爐が二つあるここには氣が付かず、唯、お皿の上のお團子をぢろつこ見たゞけで、又さんく足音させて向ふへ行つてしまひました。あよかつた、と思つて、又元の狸の姿にかへり、段々をそろりく上りました。お團子のお皿は生憎一番上の段にあつたからです。お皿ののつてゐる段の上にもよこん坐つてお團子を取り上げ、先づ堅くなつたかぎうか指で押して見ました。少し堅くなりましたがお腹の空つた狸さんには美味しさうに見えました。ごくりきつばをのみ片方のお手々を頬ぺたが落ちない様に抑さへながら、まさに食べ様さしました時、又廊下に足音がしました。戸が開けはなしてあるものですから、逃げだせば直ぐ見付かつてしまひます。狸さんはお團子をお皿に置くすぐ、自分もお團子に化けて一諸にお皿にのりました。本堂に這入つて來たのはさつきの小僧さんでした。小僧さんは持つていつた物を置きに來たのですが、又お皿のお團子をぢろつこ見ました。そして不思議さうな顔をして立止りました。

そうでせう。さつきまで一串だつたお團子がちよつこの間に二串になつてゐるんですもの、小僧さんはぢつこお團子を見てゐましたが、さうく背伸びして手を伸して一串まりました。そしてあぐさ一つ串から引込ひっこぬいて食べました。少し堅くなりましたが小僧さんにさつては

ミても美味しゆう御座いました。アグリ、ムシヤク、あぐり、ムシヤク、あぐり、ムシヤク、串から皆、引込ぬいて食^ひべて仕舞ふミ、最後に串をペロリミなめて、ボールを投げる時見たいに遠くの方へボーンミ投げてしまひました。もう一串を皿の真中へ置きかへるミ、口ばたを、袖でつるりミふいて何事もなかつた様なかほをして廊下をさんくミ行つて仕まひました。幸せなここには、小僧さんの食べたお團子は、狸さんの化けた方ではなく本當のお團子の方であつたのでした。小僧さんの登音が消えるミ、狸さんはびよんミ一足飛にミび下り、目散に逃げ歸りました。さつき寝轉んだ青草の上にべたんミ坐つて、はあく息を切らして、ミぎれく獨言を云ひました。

「本當に 危なかつた お山の 小僧さんには ミても ミても かなはない」ミ 春風が少し毛のぬけた太い大きな尻尾をそよく撫でゝ通りました。